

浜通りから ふくしまの未来を創る



県では、福島イノベーション・コースト構想を推進することで浜通りの新たな産業の創出を目指しています。今回は、福島イノベーション・コースト構想の胎動を身近に感じながら、ふくしまの未来を創るために挑戦し続ける方々を紹介します。

Interview /

飯館牛ブランドの 復活に向けて

和牛繁殖農家

佐藤 一郎 さん(飯館村)

村の避難解除に伴い、相馬市の避難先から昨年5月に帰還しました。現在は和牛の繁殖を53頭まで拡大して経営しています。私は繁殖農家なので、牛に子を産ませてから10カ月くらいで市場へ販売します。牛は年1頭の



牛の情報をタブレットで確認



子牛を産むのですが、牛の分娩(出産)には一週間泊まり込みをすることもあるので大変です。

そこで、ICTを活用した実証実験に参加しています。労働力を省力化できることに加え、データを蓄積することで、将来的に若い世代へ指導するための資料になると考えたからです。新しいやり方を飯館村でチャレンジし、発信することが一番大切だと思っています。いずれは牛の肥育までやり、飯館牛ブランドを復活、再興したいです。



ICT(情報通信技術)
活用で負担軽減

雌牛の首に巻き付けたセンサーやカメラ等で、その行動から発情期を察知して人工授精のタイミングを確認したり、分娩(出産)の監視などを行っています。牛舎内に設置したカメラで牛の行動を把握し、パソコンやタブレットで牛の個体情報を一元管理できるので助かっています。外出先から、後継者である息子へ簡単に飼育方法を伝えられるのもいいですね。



牛の行動を撮るカメラ



情報を集約する機器類



牛の首に巻き付けた発情を監視するセンサー



Interview /

自ら考え、行動できる人を育てたい

一般社団法人あすびと福島
おきさわ まりこ
沖沢真理子さん(南相馬市)

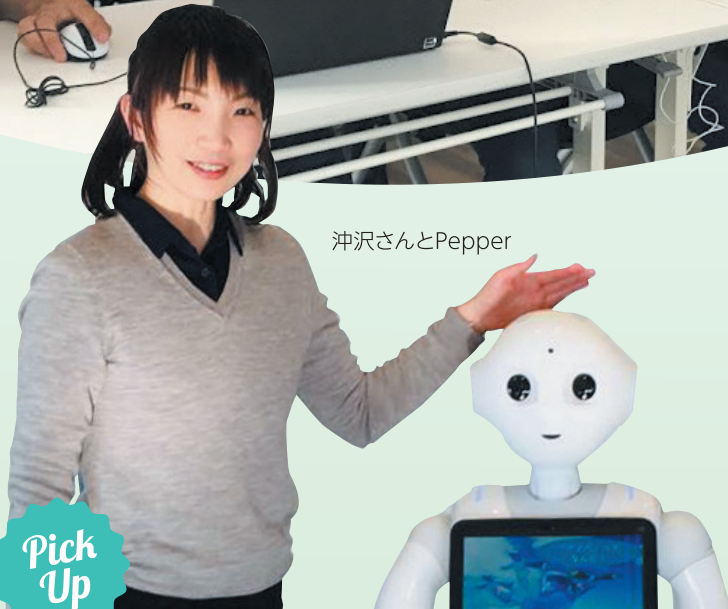
「あすびと福島」は福島復興を担う人材が育ってほしいとの志のもと、震災後に南相馬市に設立された団体です。自然エネルギーを体験学習する小中学生や、地域の課題を解決したいと思って活動する高校生の成長を支援しています。

昨年の夏からは、福島イノベーション・コースト構想を小中学生に

も理解してもらおうと、高校生がロボットのPepperにプログラミングを、関心を持ってもらう活動を盛り上げながら、小中学生は興味を持ってもらうにはどうすればよいか一生懸命考え、工夫を重ねていました。

自分の考えや意見を持って伝えることができる、その伝えたいことを実行に移せる、そういう人を育てる場をつくっていききたい。自分の地域に誇りを持って活動する高校生が小中学生にとってカッコいい存在となり「憧れの連鎖」が生まれるよう、高校生の生き生きとした活動をサポートし続けます。

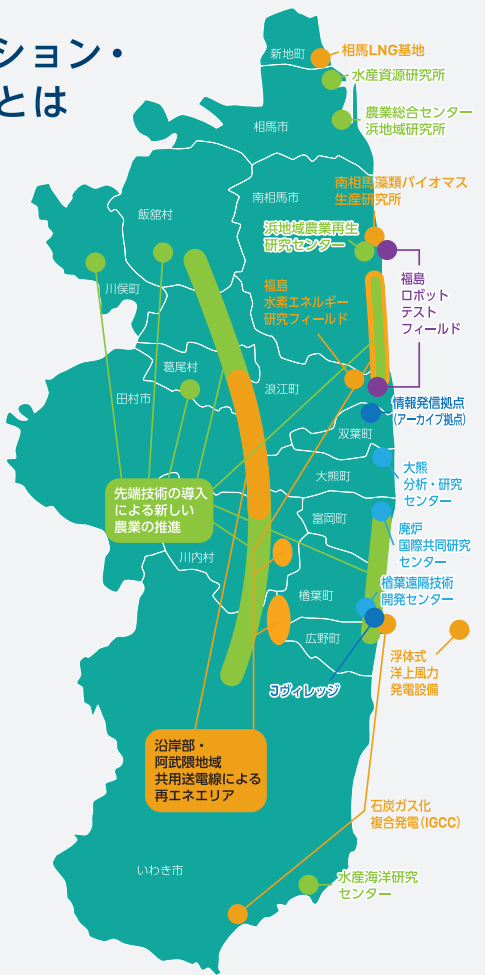
沖沢さんとPepper



Pick Up

福島イノベーション・コースト構想とは

福島イノベーション・コースト構想は、東日本大震災および原子力災害によって失われた浜通り地域などの産業を回復するため、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトです。廃炉、ロボット、エネルギー、農林水産などの分野におけるプロジェクトの具体化を進めるとともに、産業集積や人材育成、交流人口の拡大などに取り組んでいます。





会社の敷地内で行うシミュレーション



ロボット遠隔操作バスに描かれた子どもたちの絵は、社員を励ましています



製作中のロボットと岡井さん

Interview /

「ロボットで不可能を可能に！」
苦勞の先に光が見える

株式会社エイブル
取締役工事本部第一工事部長
岡井 勇 さん（広野町）

現在、福島第一原発1・2号機の排気筒を解体するという、前例のない工法での工事に取り組んでいます。具体的には、120メートルの排気筒を上部から地上59メートルまで除去するという世界初のプロジェクト。排気筒の下は高線量で人が入れないため、バスを近くに待機させて、遠隔操作でロボットを使い

ながら、クレーンで吊って上から順々に除去します。

大前提として、まずは解体できる方法を楽観的に発想するんです。始めから難しく考えるとできない。そして、現場で困らないように、会社の敷地内で模擬筒を作って入念にシミュレーションします。もちろん、実際にやってみると壁にぶつかりますが、苦勞しながらやっている「これだ！」という解決策が見えてくるんです。

廃炉は地元企業である私たちの悲願。そのためには、新しいロボットの開発などが必要になってきます。人材育成も含めて、そういう技術を浜通りから高めていければと思います。子どもたちの将来のために、これからも不可能を可能にする取り組みをしていきます。

知事
メッセージ
Message

福島イノベーション・コースト構想の推進に向けて
福島県知事 内堀 雅雄



この構想を進めるためには、困難な課題を解決できる「技術力」と復興をリードする高い志を持った「人材の育成」が重要です。

このため、農林水産業へのICT導入を始め、ロボット、エネルギー、廃炉関連産業などへの企業の参入促進、地元企業の技術向上や事業拡大、さらには、県内の高校や大学等と連携した実践的な教育にも力を入れていくところです。

今後も、福島の新しい未来づくりに向け、構想の効果が浜通りはもとより、県全体に広がるよう、国、市町村、関係機関が一丸となって取り組んでまいります。

キビタンの わかる県政



はい ろ

廃炉を監視する 福島の“目”

福島第一原子力発電所では、事故の収束や廃炉に向けた作業が行われています。県では、安全確認を行う監視体制を整備して、国・東京電力の廃炉作業が安全かつ着実に進むよう、厳しく監視しています。



現地駐在員による監視

楡葉原子力災害対策センターに駐在している県職員が、原子力発電所の構内に入り、廃炉作業が計画通り着実に進められているか、十分な安全対策が講じられているかなどを、日々確認しています。トラブル発生時には、速やかに現場確認や情報収集を行います。



専門家・行政の視点で確認

「**廃炉安全監視協議会**」は、学識経験者、関係13市町村、県から構成され、立入調査などを通じて廃炉の進捗状況や安全対策などを確認し、国・東京電力に対して申し入れを行っています。



県民の目線で確認

「**廃炉安全確保県民会議**」は、関係13市町村の住民や県内の各種団体の代表者がメンバーとなり、会議や現地視察を通じて廃炉に向けた取り組みの状況を確認しています。



廃炉の“いま”を紹介する動画

楡葉町駐在の業務



作業の進捗やトラブルへの対応状況を確認

国や東京電力が示した廃炉の道筋「中長期ロードマップ」の柱となる「汚染水対策」、「使用済燃料の取り出し」、「燃料デブリの取り出し」、「廃棄物対策」など、廃炉に向けた取り組みの状況や県の監視体制について紹介しています。

広報紙「廃炉を知る」

廃炉の現状や県の取り組みをさまざまな視点で紹介しています。



動画や広報紙は、県ホームページでご覧いただけます。

☎ 県庁原子力安全対策課

☎ 024(521)8054

福島県原子力安全対策課

検索



広報 ガイド

県の情報をテレビやラジオでチェック!

※番組は一部、放送曜日・時間が変わることもあります。

テレビ

F T V

キビタンGO!
～ふくしまからチャレンジ
はじめよう。～

毎週 水 20:54～20:58

サタふく
「ふくしま調査隊」
月1～2回 土 12:00～14:00内

F C T

**ふくしまチャレンジ
情報館**

毎週 土 20:54～20:57内

F B K

ふくしまスーパーJチャンネル
「ふくしまここが知りたいデス!
～チャレンジはじめよう～」

毎月最終 金 18:15～18:55内

**ウィークリー
県政トピックス**
毎週 土 17:55～18:00

T U F

**ウィークリー
県政ニュース**
毎週 土 18:55～19:00
[再放送] 毎週 日 24:50～24:55

ラジオ

r f c

**ふくしま
チャレンジ通信**
毎月最終 火 12:30～12:45

ふ く し ま

キビタンスマイル
～ふくしまからチャレンジはじめよう。～
月～金 17:30～17:35

広報誌のバックナンバーや番組の詳細などをご覧いただけます。

福島県 広報ガイド

検索